

# 東京藝術大学

## 令和5年度 財務レポート

(令和5事業年度 令和5年4月1日～令和6年3月31日)

---



TOKYO GEIDAI

# 東京藝術大学の使命と目標

東京藝術大学は、その前身である東京美術学校、東京音楽学校の創立以来130余年間、我が国の芸術教育研究の中核として、日本文化の伝統とその遺産を守りつつ、世界の芸術思想及び技術を摂取、融合を図り幾多の優れた芸術家、中等教育から高等教育に亘る芸術分野の教育者・研究者を輩出してきました。

東京美術学校



東京音楽学校



こうした歴史的経緯を踏まえつつ、総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我が国ひいては世界の芸術文化の発展を担い、社会とともに芸術の多様な価値を創出することが、東京藝術大学の使命であると考えています。

また、この使命の遂行のため、以下のことを基本的な目標としています。

- 世界最高水準の芸術教育を行い、  
高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者及び芸術に携わる全ての実践者を養成する。
- 国内外の芸術教育研究機関や他分野との交流等を行いながら、  
伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進する。
- 心豊かな活力ある社会の形成にとって芸術のもつ重要性への理解を促す活動や、  
全ての人々が芸術に親しむ機会の創出に努め、芸術をもって社会に貢献する。



# 第4期中期目標期間におけるビジョン

## 芸術の力による、または、芸術と異分野との融合による、社会的課題の解決

第4期中期目標期間（R4～R9年度）においては、本学の使命と目標を踏まえ、また、これからのあるべき社会・世界を見据え、我が国唯一の国立総合芸術大学として、社会変革を駆動する決定的な役割を担うべく、その機能を拡張しつつ、デジタル技術等も取り込みながら新たな芸術領域を開拓し、芸術をより一層社会の中に接続させることで、「**芸術の力による、または、芸術と異分野との融合による、社会的課題の解決**」を全学的に推進していくことを基本的な方針として掲げています。

### 実現のための計画・方策

#### 社会との共創

##### 産学官を越えた世界最高水準の国際的な芸術文化拠点の構築

世界各国の卓越した芸術大学・機関・団体との連携・交流・協力

##### 芸術の価値の社会発信により投資を呼び込み教育研究を高度化する好循環システムの構築

全国の地方自治体や産業界・関連機関との連携・協働の深化と、教育研究およびその成果の発信・社会実装の推進

##### 芸術の力による誰一人取り残さない包摂的な共生社会の実現

幅広い年代の市民が芸術に親しむ機会の充実化

#### 教育・研究

##### 世界・社会で活躍するトップアーティストの戦略的育成の推進

芸術と社会との繋がりや異分野についての幅広い学修機会の整備、分野横断的なプログラムおよび新しい専攻の整備、企業等との共同研究の機会の充実化

##### 芸術の力による社会的課題の解決を实践する社会人のキャリアアップ支援

履修証明プログラムや企業人向けの研修プログラム等の充実化

##### 国際感覚を持った人材の養成

海外一線級アーティストの指導機会や国際共同プロジェクトの拡充

##### 学術研究の卓越性・多様性の強化と継承・発展

芸術の継承と新しい表現の創造の深化、芸術資源の保存・アーカイブ化の促進、多様な人材が集う芸術分野の研究拠点の形成

#### 大学運営

##### 強靱なガバナンス体制の構築

経営・運営の意思決定への監事や外部委員の参画、地方自治体や民間企業等と意見交換する仕組みの構築

##### 施設及び設備等の保有資産

「インフラ長寿命化計画」に基づく施設設備の運用、スペースチャージの拡大等による土地建物の有効活用、デジタル空間上のキャンパス「東京藝大デジタルツイン」の整備・活用の推進

第4期におけるより詳細な目標・計画についてはこちら

[第4期中期目標・中期計画一覧] [https://www.geidai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/11/legal02ro\\_02ichiran\\_R04-R09\\_20230325.pdf](https://www.geidai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/11/legal02ro_02ichiran_R04-R09_20230325.pdf)

# 東京藝術大学の基礎情報

## 学生数

	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	1,012名	1,002名	-	-	2,014名
大学院（修士）	573名	281名	132名	25名	1,011名
大学院（博士）	160名	64名	16名	24名	264名
別科	-	55名	-	-	55名
附属高等学校	-	110名	-	-	110名

## 学位授与数・修了者数・卒業者数

	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	213名	224名	-	-	437名
大学院（修士）	239名	99名	56名	15名	409名
大学院（博士）	27名	9名	3名	5名	44名
別科	-	20名	-	-	20名
附属高等学校	-	32名	-	-	32名

※論文博士を含む

## 教職員数

教員	251名
職員等	168名
合計	419名

## 建物及び土地面積

校地	建物延	土地
上野校地	98,902㎡	69,663㎡
取手校地	23,541㎡	164,095㎡
横浜校地	4,667㎡	1,927㎡
千住校地	6,546㎡	4,045㎡
奈良・古美術研究施設	1,036㎡	1,792㎡
東和・藝心寮	8,846㎡	7,811㎡
愛住・美術愛住館	579㎡	350㎡
合計	144,117㎡	249,683㎡

## 国際交流

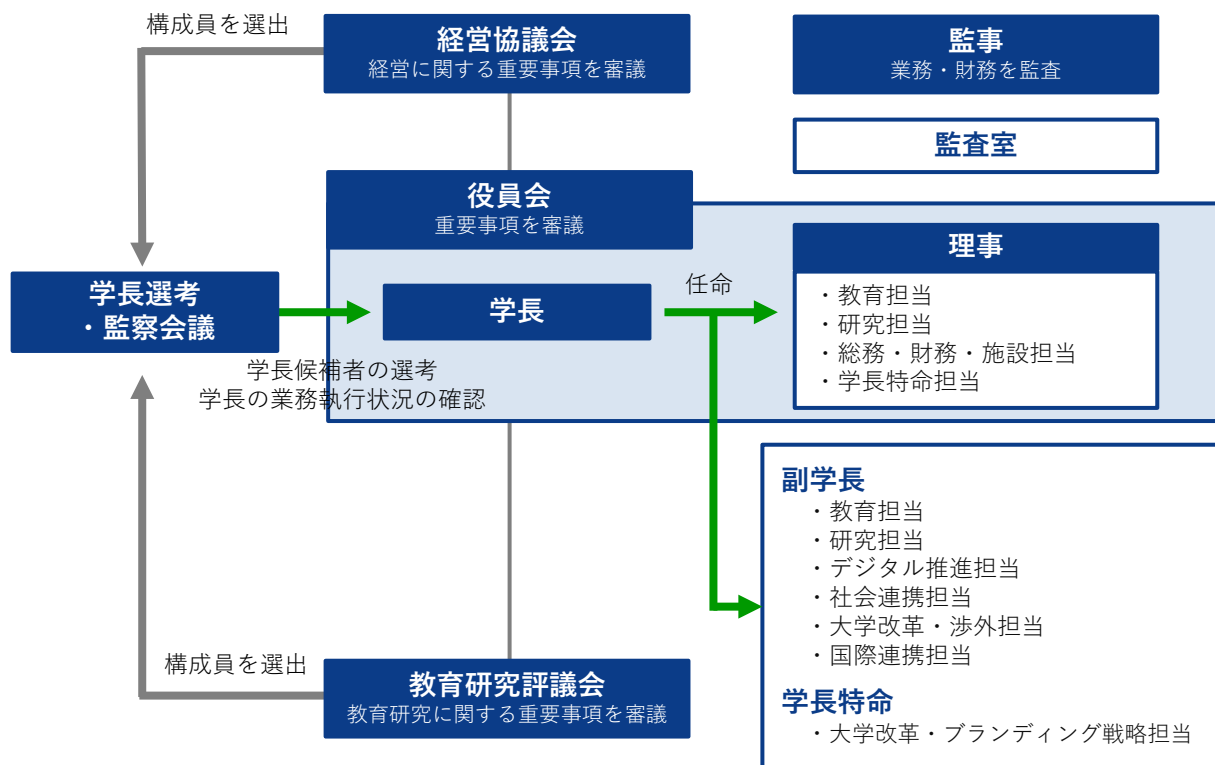
大学間交流協定締結機関	27カ国・地域 76機関
外国人留学生	39カ国・地域 352名

## 所蔵品・楽器・蔵書

美術工芸品・標本・資料	30,712件
楽器	2,793点
蔵書冊数	416,961点
雑誌	5,297タイトル

※学位授与数・修了者数・卒業者数は令和5年度実績  
そのほかは令和6年5月1日現在の実績を示す





部局	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部               <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術学部 - 事務部</li> <li>・附属古美術研究施設</li> <li>・附属写真センター</li> </ul> </li> <li>・音楽学部 - 事務部               <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属音楽高等学校</li> <li>・藝大フィルハーモニア管弦楽団</li> </ul> </li> <li>・大学院               <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術研究科</li> <li>・音楽研究科</li> <li>・映像研究科 - 事務部</li> <li>・国際芸術創造研究科</li> </ul> </li> <li>・大学別科</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属図書館 - 事務部</li> <li>・大学美術館 - 事務部</li> <li>・社会連携センター</li> <li>・未来創造継承センター</li> <li>・言語・音声トレーニングセンター</li> <li>・演奏芸術センター</li> <li>・保健管理センター</li> <li>・芸術情報センター</li> <li>・藝大アートプラザ</li> </ul>

事務局
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画総務課</li> <li>・人事労務課</li> <li>・財務会計課</li> <li>・社会連携課</li> <li>・学生課</li> <li>・施設課</li> <li>・千住校地事務センター</li> </ul>

# 令和5年度の主なTOPIC

## 社会との共創

### 「芸術未来研究場」の設置



人が生きる力であるアートを根幹に据え、人類と地球のあるべき姿を探求するための組織として、2023年4月に「**芸術未来研究場**」を設置しました。

「ケア・コミュニケーション」「アートDX」「クリエイティヴアーカイヴ」「キュレーション」「芸術教育・リベラルアーツ」の5つの横断領域を設定し、互いの領域の枠を超えて混じりあいながら、**全学横断的に学外の様々な組織と協働・連携して、社会の様々な領域におけるアートの新たな価値や役割を創出することを目的**としています。

### 地域中核・特色ある研究大学強化促進業への採択

本学を提案大学とする構想「アートと科学技術による『心の豊かさ』を根幹としたイノベーション創出と地域に根差した課題解決の広域展開」が、文部科学省および日本学術振興会（JSPS）が実施する「**地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）**」に採択されました。

連携機関である、香川大学、東京大学、東京医科歯科大学および東京工業大学との組織的な協力のもと、前述の「**芸術未来研究場**」を中心に、**アートの研究力を活かした共創モデルの開発、アートのインパクト評価および共創を支える運営モデルの構築を統合的に推進**していきます。

プレスリリース <https://www.geidai.ac.jp/news/20231226132901.html>

### 企業・自治体等との包括連携協定の締結

令和5年度、以下の連携協定を新たに締結しました。その協定による取組を一部紹介します。

#### JR東日本

—個性豊かな地域社会の形成と発展—

JR上野駅に「CREATIVE HUB UENO “es”」を開設。上野駅全体を美術館と見立て、本学学生・卒業生の作品を展示し、多様な文化交流の場を創出しました。

#### 株式会社みずほフィナンシャルグループ

—金融×アートによる持続性ある豊かな社会の共創—

共同研究「アートとジェンダー研究会」を始動し、本学学生・教職員とみずほFG社員とのグループリサーチと、ゲストを迎えてのレクチャーを実施しました。

#### 東京医科歯科大学

—医療と芸術の分野融合により社会の諸問題を解決—

「わたしたちの病院づくりプロジェクト」として、新しい病院の価値創造に向けた人材の育成、及び多様な人々が共生できる環境づくりを目指した、院内フィールドワーク、医療関係者とのワークショップ等を行いました。

# 令和5年度の主なTOPIC

## 教育・研究

### キュレーション教育研究センター（CCS）における公開授業「社会共創科目」の開講

2022年度に開設したキュレーション教育研究センターにおいて、地域住民や社会人等も受講できる公開授業（社会共創科目）を開講しました。そのうち、「現代美術キュレーション概論」では、日本博物館教育協会・全国美術館会議の受講生に加え、ビジネスパーソンを中心とした社会人受講生も受講しており、アート思考に関心の高い社会人のリカレント教育に貢献しました。学生と社会人とが共同して取り組む演習科目も開講し、本学学生にとっても社会人との交流を通じて、様々なキャリアプランや、自身の創作・研究活動と社会との接続を学ぶ機会となりました。

### アートDXにおけるデジタル分野での教育・研究推進

デジタル技術やICT技術を使って、アートの社会的価値を最大化し、Well-beingな社会構築を目指す「アートDX」では、デジタル3Dアーカイブに関するワークショップや、生成AIと芸術に関する特別講義など、全学向けの教育プログラムを提供しています。

2023年度は「ART DX EXPO #1」を開催し、アートDXでの研究成果のみならず「I LOVE YOUプロジェクト」※として公募・採択され、技術支援を行った学内の学生・教員の研究・制作活動の成果を発表しました。

※I LOVE YOU プロジェクト紹介HP <https://iloveyou.geidai.ac.jp/>



アートDX夏季特別ワークショップの様子

また、デジタル空間上のキャンパスである「東京藝大デジタルツイン」では、新たな試みとして学内のコンサートを立体音響で配信する「GEIDAI 3D AUDIO LAB」を開始しました。

## キャンパス整備

### 「芸術未来研究場」拠点の整備

2022年度に採択を受けた「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の支援により、「芸術未来研究場」の活動拠点の整備を進めました。

上野キャンパス内の大学本部棟を、芸術未来研究場における「マネジメント拠点」かつ「発信・展開拠点」とすべく、展示機能や体験機能、コミュニケーションのハブとなる施設として学内外の様々な人々が往来できるようなスペースへの改修を開始し、令和6年度の完成を目指しています。また、芸術未来研究場の「地域型研究拠点」として、台東区上野桜木にある建物施設を取得し、様々な機関・団体の人材が地域と交流しながら活動・実践できるようなオープンラボ（コワーキングスペース）等として施設の整備を行いました。

## キャンパス環境維持にかかる資金確保

### 電気代支援のための寄付募集・特別講座開催

光熱水費の高騰を受け、社会連携センター特別講座「まさしと道彦の部屋 電気代を稼ぐコンサート LIGHT FOR ARTS!!」を、一般公開型の特別講座・コンサートとして有料開催しました。このコンサートの告知と合わせて、電気代支援のための寄付募集も行い、会場チケットの収入から必要経費を差し引いた収益（約270万円）と寄付金（約930万円）により合計約1200万円のご支援をいただくことができました。



# 学部・研究科の実績

## 美術学部・研究科

### 社会との共創

#### 学内外の施設を活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

民間企業や地方自治体等と連携した多数の展覧会やプロジェクトを実施するとともに、**学生** **にとっての社会実践の機会**としても機能させました。

#### 【民間企業・自治体等と連携したプロジェクトの例】

- ・ 静岡県袋井市におけるパブリックアート制作
- ・ 長野県東御市との連携事業「天空の芸術祭」
- ・ 福島県須賀川市市民交流センターtetteにおける「AAIP」展
- ・ 大丸松坂屋百貨店との連携による「さくらパンダプロジェクト」
- ・ 在NY芸術家集団「THEBRICKS NYC」とのNYでの共同展覧会
- ・ 寺社文化財の修復・復元事業

### 教育・研究

#### 海外大学・機関のアーティスト・研究者の招聘による特別講義や実技指導等の実施

ミュンスター美術アカデミーの教員・学生を迎えて共同プログラムを実施したほか、メトロポリタン美術館のキュレーターを招聘し、卒業・修了作品展において学生が自身の作品をプレゼンする経験を積みました。

## 財務情報

(単位:百万円)

### 教育研究環境への投資状況

178

#### 主な内容

・ 取手校地橋梁や絵画棟の改修工事等を実施し、教育研究環境の安全性向上や実習環境の改善に取り組んでおります。

#### 財源の内訳

運営費交付金	0
授業料・その他自己収入	35
目的積立金等	95
寄付金	8
施設整備費	40
補助金	-

#### 運営状況

費用 2,967

収益 2,967

教育経費	604	運営費交付金収益	1,393
研究経費	157	学生納付金収益	1,252
教育研究支援経費	2	外部資金	277
受託研究他	131	自己収入	16
人件費	2,024	その他	29
一般管理費	49		
その他	0		

#### 外部資金の内訳

受託研究収益	21
共同研究収益	2
受託事業等収益	115
寄附金収益	76
施設費収益	15
補助金等収益	48



社会との共創

学内外の施設を活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

本学の奏楽堂等を活用し、各種有料演奏会、試験演奏会、学位審査演奏会等を開催したほか、学外の企業・団体等からの依頼に基づく演奏活動を多数実施するとともに、**学生を派遣する等の取組により、実践的な活動機会の充実**を図りました。

【学外の企業・団体等からの依頼に基づく演奏活動の例】

- ・第73回チャリティーコンサート メサイア
- ・藝大アーツイン丸の内203 オープニング・イベント、三菱地所賞受賞記念リサイタル
- ・アーティストinくろべ 青少年交流事業
- ・日本国際賞授賞式における演奏
- ・KIOI CONCERT
- ・小中学校等へのアウトリーチ活動

教育・研究

海外大学・機関との交流プログラムの本格的再開

新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえて、感染症対策に留意しながら、対面での国際交流活動を本格的に再開し、**海外一線級演奏家の招聘や演奏会での共演を実現**しました。また、藝大フィルハーモニア管弦楽団がアルゼンチンのコロソ劇場で出張公演を行ったほか、藝大フィル楽団員が現地若手音楽家へのレッスンを実施するなど、文化交流がなされました。

財務情報

(単位:百万円)

教育研究環境への投資状況

34

主な内容

・楽器や練習ホール館設備等の更新を実施し、実習環境の改善に取り組んでおります。

財源の内訳

運営費交付金	19
授業料・その他自己収入	7
目的積立金等	0
寄付金	0
施設整備費	8
補助金	-

運営状況

費用	2,191	収益	2,191
教育経費	450	運営費交付金収益	904
研究経費	78	学生納付金収益	977
教育研究支援経費	1	外部資金	243
受託研究他	88	自己収入	46
人件費	1,542	その他	21
一般管理費	31		
その他	1		

獲得外部資金の内訳

受託研究収益	27
共同研究収益	8
受託事業等収益	75
寄附金収益	95
施設費収益	0
補助金等収益	38

## 社会との共創

### 学内外の施設やオンラインを活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

キャンパスが所在する横浜市との連携により、横浜市役所のアトリウムを活用したアニメーションワークショップの開催や、神奈川県民共済シネマホールでの修了作品上映会の実施、関内ホールでのトワイライトコンサート、横浜ミュージック&フィルム・デイの開催など、**地域と連携した成果発信を推進**しました。

## 教育・研究

### 海外大学・機関のアーティスト・研究者の招聘による特別講義や実技指導等の実施

国立フランス映画学校(FEMIS)や南カリフォルニア大学等の教員を招聘し、特別講座やワークショップを実施しました。

### 大学の世界展開力強化事業（米国等との大学間交流形成支援）の採択

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に、南カリフォルニア大学（アメリカ）との連携・共創を内容とする本学の申請構想「STEAM教育を活用した情報メディア革新時代の日米映像クリエイター育成」事業が採択されました。STEAM教育を活用しながら、テクノロジー＋アートでイノベーションを生み出すクリエイターの育成を目指します。

## 財務情報

(単位:百万円)

### 教育研究環境への投資状況

24

#### 主な内容

・音響設備や編集機材等を整備し、教育研究活動の充実化に取り組んでおります。

#### 財源の内訳

運営費交付金	0
授業料・その他自己収入	3
目的積立金等	12
寄付金	-
施設整備費	-
補助金	9

#### 運営状況

費用	496	収益	501
教育経費	151	運営費交付金収益	305
研究経費	39	学生納付金収益	119
教育研究支援経費	-	外部資金	68
受託研究他	12	自己収入	2
人件費	288	その他	7
一般管理費	6		
その他	0		

#### 獲得外部資金の内訳

受託研究収益	-
共同研究収益	-
受託事業等収益	13
寄附金収益	10
施設費収益	-
補助金等収益	45

## 社会との共創

### 学内外の施設やオンラインを活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

足立区、NPO法人音まち計画、アーツカウンシル東京などと連携し、多彩なアートプロジェクトの企画・運営を行い、実践的な教育活動として学生が参加しました。さらに、新たな試みとして、GINZA SIXの銀座蔦屋書店との連携で、GA学生のキュレーションによる展示も開催されました。

## 教育・研究

### 海外大学・機関との交流プログラムや、招聘ゲストによる特別講義の実施

本学の教員・学生が海外大学等を訪問して共同教育を行うアーツスタディ・アブロードプログラム（ASAP）を活用し、学生11名を教員6名とともに台湾（台北）に派遣し、国立台北芸術大学・国立台北教育大学と交流を行いました。

また、エディンバラ大学やニュージャージー・シティー大学、高雄師範大学跨領域藝術研究所等から顕著な業績を有する研究者を招き、計10回の特別講演等を実施しました。

### 社会人等を対象とした多様な教育・研修プログラムの実施

国際芸術創造研究科としては初の公開講座「文化芸術プロデュースへの招待」を開講しました。この講座は、日経ビジネスオンデマントでも販売公開しています。

## 財務情報

(単位:百万円)

### 教育研究環境への投資状況

1

#### 主な内容

・コンピュータやカメラ等の研究機器を調達し、新たな教育研究環境の整備・充実化を行いました。

#### 財源の内訳

運営費交付金	-
授業料・その他自己収入	0
目的積立金等	1
寄付金	-
施設整備費	-
補助金	-

#### 運営状況

費用	148	収益	156
教育経費	20	運営費交付金収益	106
研究経費	19	学生納付金収益	34
教育研究支援経費	0	外部資金	16
受託研究他	4	自己収入	0
人件費	105	その他	0
一般管理費	0		
その他	0		

#### 獲得外部資金の内訳

受託研究収益	-
共同研究収益	-
受託事業等収益	5
寄附金収益	2
施設費収益	-
補助金等収益	9

# 令和5事業年度決算

## 財務諸表等の概要

国立大学法人では、国民その他ステークホルダー（利害関係者）に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自己の状況を客観的に把握する観点からの作成及び公表が義務付けられています。ここでは、皆様に本学の財務状況をお伝えするために、令和5年度決算のポイントを説明します。

正式な財務諸表等は、こちら（東京藝術大学HP）に掲載されています。

[https://www.geidai.ac.jp/information/info\\_public/legal/library\\_of\\_legalinfo#FinancialInformation](https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal/library_of_legalinfo#FinancialInformation)

# 1. 貸借対照表の概要

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科目	(令和4年度)	令和5年度	増減	増減比
<b>資産の部</b>	<b>(70,969)</b>	<b>73,735</b>	<b>2,766</b>	<b>4%</b>
<b>【主な科目】</b>				
土地	(37,292)	37,707	415	1%
建物・構築物	(21,525)	22,167	642	3%
工具器具備品 ※1	(738)	1,068	329	45%
図書	(1,505)	1,528	23	2%
美術品・收藏品	(5,006)	5,020	13	0%
現金及び預金 ※2	(3,128)	4,658	1,530	49%
<b>負債の部</b>	<b>(6,050)</b>	<b>7,108</b>	<b>1,057</b>	<b>17%</b>
<b>【主な科目】</b>				
長期前受収益	(1,763)	1,675	△ 88	-5%
運営費交付金債務	(47)	48	0	1%
寄附金債務	(2,067)	2,125	57	3%
未払金 ※3	(832)	1,999	1,167	140%
<b>純資産の部</b>	<b>(64,918)</b>	<b>66,626</b>	<b>1,708</b>	<b>3%</b>
<b>【主な科目】</b>				
前中期目標期間繰越積立金 ※4	(803)	552	△ 250	-31%
目的積立金	(0)	286	286	-
積立金 ※5	(0)	4,721	4,721	-
当期未処分利益 ※5	(5,068)	798	△ 4,269	-84%

## 対前年度増減比率が大きい科目とその主な増減要因

※1 大学美術館取手収蔵棟の収蔵棚をはじめとする備品等の取得により、前年度より増加している。

※2 現金及び預金：年度内に交付を受けた施設整備費補助金により実施した大規模工事等が令和6年3月に完了し、代金の支払いが翌期となったため、前年度より増加している。

※3 未払金：※2と同様の要因により、翌期の支払いのために相当の額を未払金として計上したため、前年度より増加している。

※4 前中期目標期間繰越積立金：施設整備費用等に充てる目的で取り崩したため、前年度より減少している。

※5 積立金及び当期未処分利益：令和4年度に国立大学法人会計基準が改訂され、資産見返負債を全額収益化したため、積立金は前年度より増加している。また、4年度の当期未処分利益が例年に比して多額となった影響もあり、当該科目としては、前年度より減少している。



## 2. 損益計算書の概要

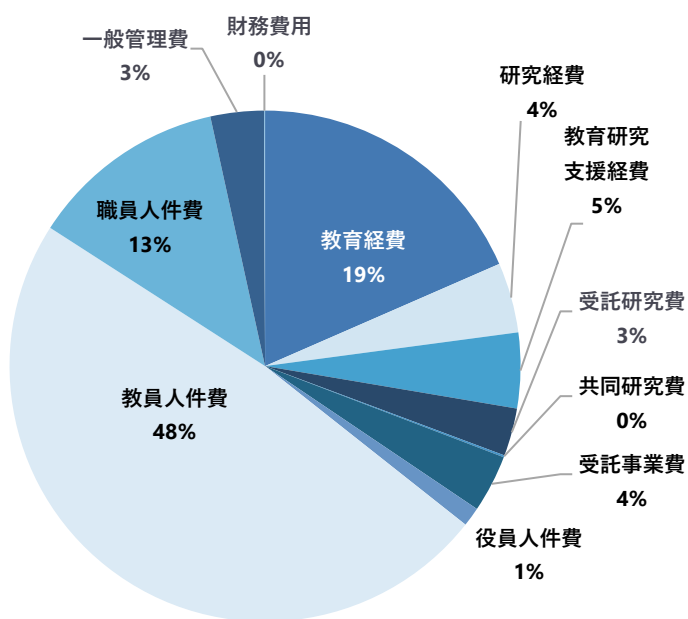
(単位：百万円、単位未満切り捨て)

科目	(令和4年度)	令和5年度	増減額	増減比
<b>経常費用</b>	<b>(8,590)</b>	<b>8,571</b>	<b>△ 19</b>	<b>0%</b>
【主な科目】				
教育経費	(1,747)	1,581	△ 165	-9%
研究経費	(410)	380	△ 30	-7%
受託研究費等 ※1	(374)	581	206	55%
人件費	(5,249)	5,324	75	1%
一般管理費	(400)	289	△ 111	-28%
<b>経常収益</b>	<b>(9,608)</b>	<b>9,259</b>	<b>△ 349</b>	<b>-4%</b>
【主な科目】				
運営費交付金収益	(4,795)	5,231	435	9%
学生納付金収益	(2,447)	2,447	0	0%
受託研究等収益等 ※1	(390)	604	214	55%
寄附金収益 ※2	(1,131)	324	△ 807	-71%
施設費収益 ※3	(153)	48	△ 104	-68%
補助金等収益 ※4	(347)	204	△ 142	-41%
入場料収入	(66)	50	△ 16	-25%
公開講座等収入	(65)	87	22	34%
<b>経常利益</b>	<b>(1,018)</b>	<b>688</b>	<b>△ 329</b>	<b>-32%</b>
<b>臨時損失</b>	<b>(11)</b>	<b>0</b>	<b>△ 10</b>	<b>-94%</b>
<b>臨時利益 ※5</b>	<b>(3,948)</b>	<b>14</b>	<b>△ 3,933</b>	<b>-100%</b>
<b>前中期目標期間繰越積立金取崩額</b>	<b>(113)</b>	<b>45</b>	<b>△ 67</b>	<b>-60%</b>
<b>当期総利益</b>	<b>(5,068)</b>	<b>798</b>	<b>△ 4,269</b>	<b>-84%</b>

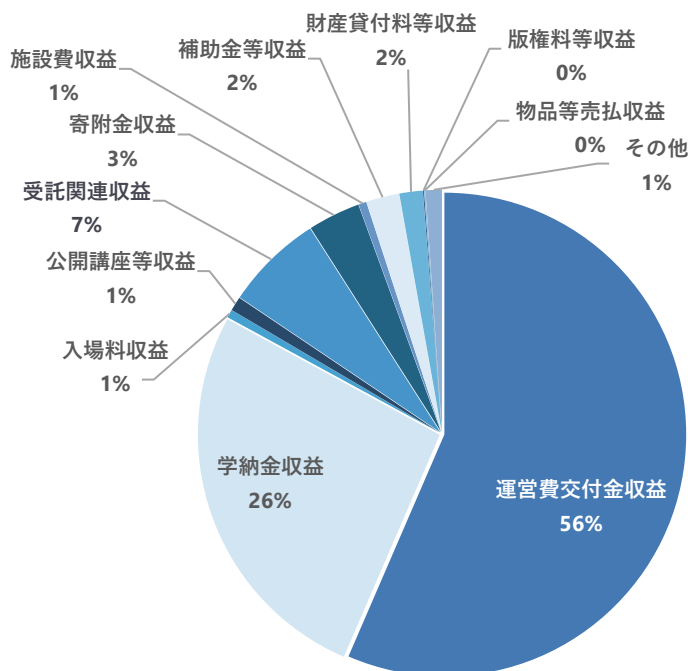
### 対前年度増減比率が大きい科目とその主な増減要因

- ※1 受託研究費等、受託研究等収益：令和5年度から「共生社会をつくるアートコミュニケーション 共創拠点」が科学技術推進機構(JST)「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の「本格型(共創分野)」に採択されるなど受託研究等が拡大したため、それぞれ前年度より増加している。
- ※2 寄附金収益：令和4年度に主に寄附金を財源として新設した国際交流棟の竣工に伴い、例年より多額の収益化額を計上したこともあり、前年度より減少している。
- ※3 施設費収益：施設整備費補助金の多くを建物等の固定資産取得に活用し、修繕費等、収益化額と相対する費用の額が少額であったため、前年度より減少している。
- ※4 補助金等収益：令和4年度に国土交通省からの国際交流棟施設整備への補助金等、特定の事業にかかる補助金に基づく収益化額を計上したこともあり、前年度より減少している。
- ※5 臨時利益：令和4年度に国立大学会計基準改訂による資産見返負債の収益化額を計上したこともあり、前年度より減少している。

## 経常費用の内訳



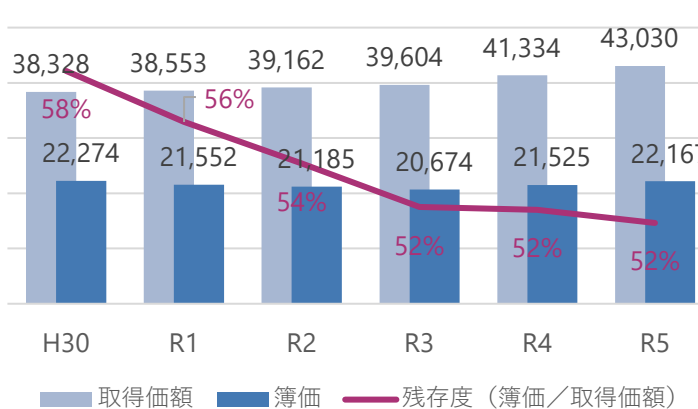
## 経常収益の内訳



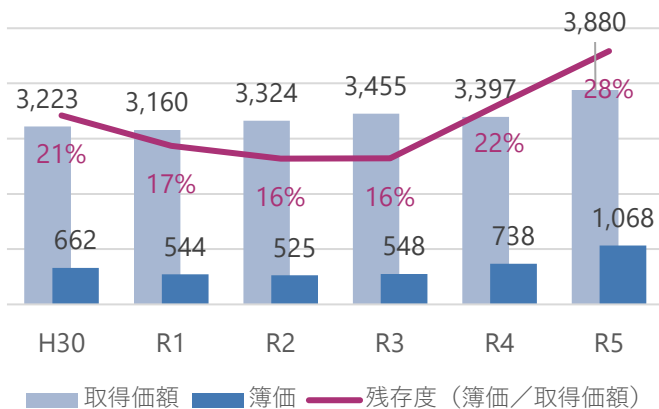
## 3. 有形固定資産

(単位：百万円)

### 施設（建物・構築物）の推移



### 設備（工具器具備品）の推移



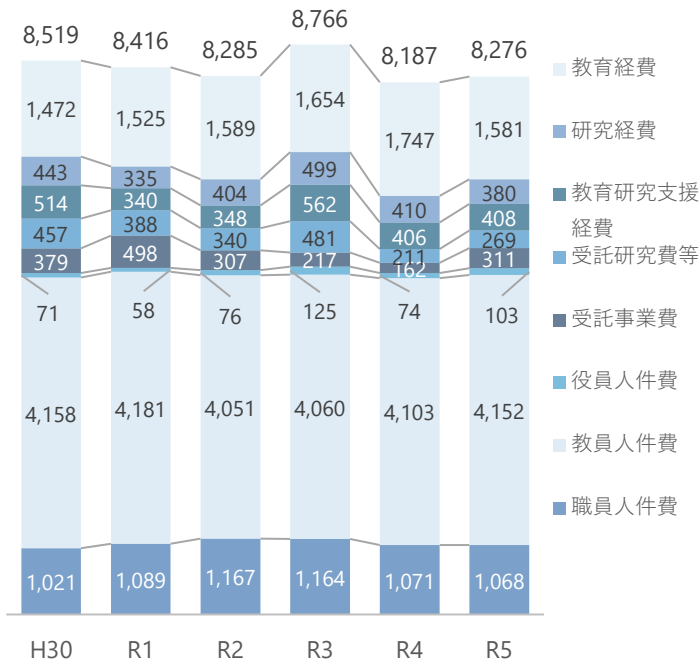
【施設】取得価格が増加していることから、引き続き、投資が進んでいることが分かる。前年度より簿価は増加したものの、残存度は減少傾向にあり、その割合はゆるやかになっているが、老朽化・陳腐化がやや進んでいる傾向にあることが推測される。

【設備】前年度と比べて、取得価額、簿価、残存度のいずれも増加しており、老朽化・陳腐化の進行については、近年、改善傾向にあることが推測される。

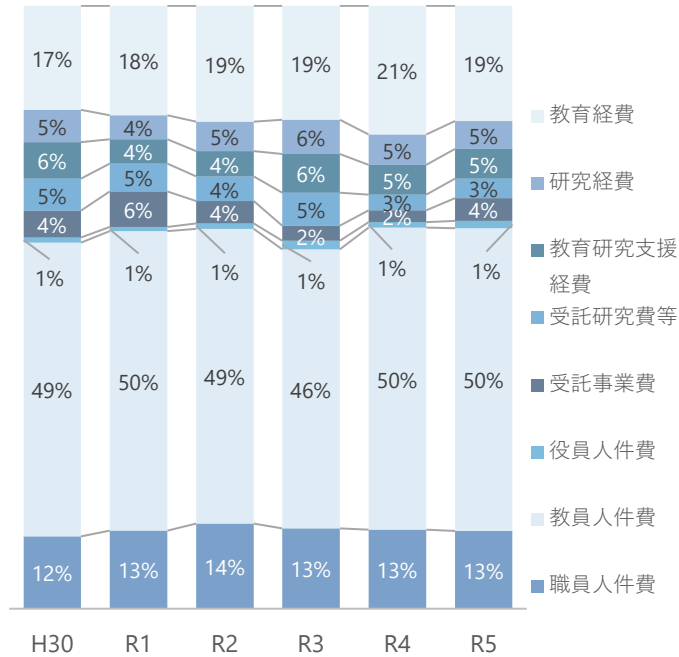
# 4. 業務費

業務費の金額の推移

(単位：百万円)

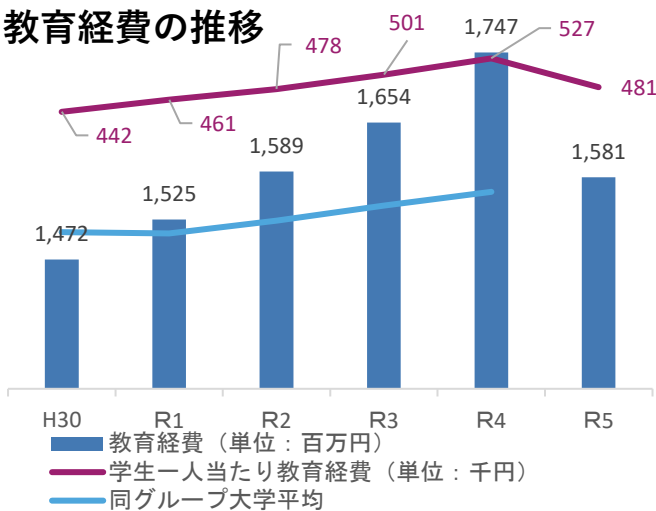


業務費の割合の推移



# 5. 教育経費・研究経費

教育経費の推移

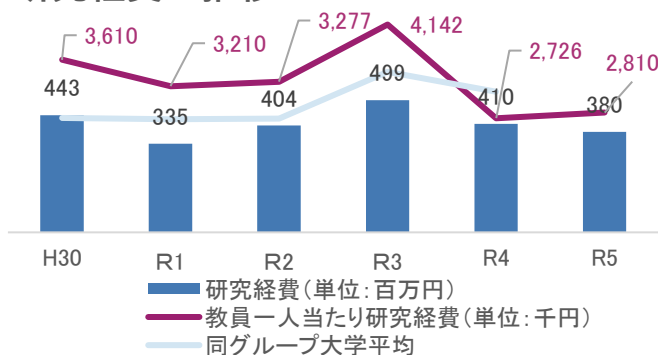


教育経費は、これまで増加傾向にあったものの、前年度に建物の改修工事の経費が多く計上されていたこともあり、前年度比で減少している。  
 学生一人当たり教育経費については、近年、同グループの大学の平均を上回る傾向にある。

学生一人当たり教育経費：学生当たりの教育経費であり、この数値が大きいほど学生一人当たりにかげられた教育目的の物件費等が大きいことを示す。

同グループ文科系大学(福島大学、筑波技術大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学(、令和3年度まで小樽商科大学を加えて比較)

研究経費の推移



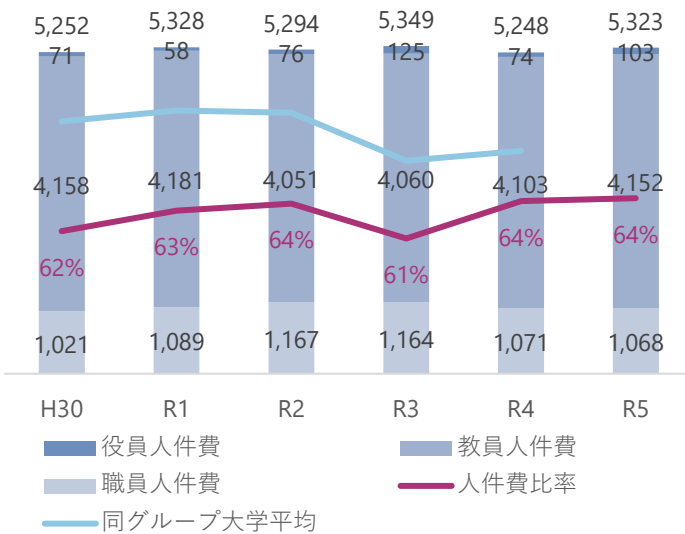
研究経費は、教育経費と同様、前年度に建物の改修工事の経費が多く計上されていたこともあり、前年度比で減少している。  
 教員一人当たり研究経費は、受託研究費の増加もあり、前年度比で増加している。

教員一人当たり研究経費：常勤教員当たりの研究経費であり、この数値が大きいほど教員一人当たりにかげられた研究目的の物件費等が大きいことを示す。

# 6. 人件費・一般管理費

## 人件費の推移

(単位：百万円)



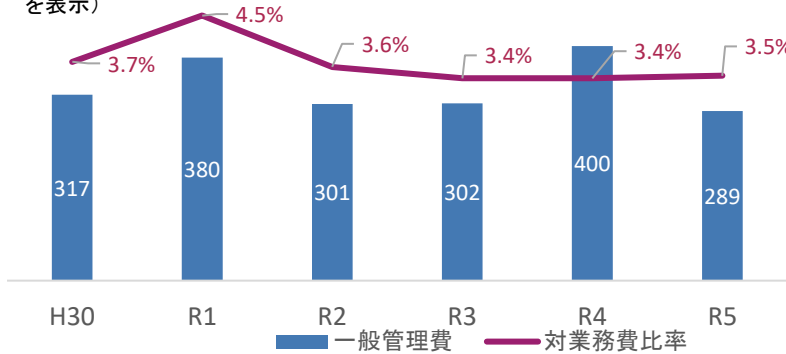
人件費は、役職員の退職手当の増加等により、前年度比で増加している。  
同グループ大学と比較すると、近年の人件費比率は、平均を下回る傾向にある。

人件費比率：人件費が業務費に占める割合を示す指標。この数値が高いほど、学内の教育・研究等の業務が主に教職員等の人材に依っていると解釈できる。

## 一般管理費の推移

(単位：百万円)

(平成30年度分についてはPCB廃棄物処理費への支出255百万円を除いた金額を表示)  
(令和2年度分については取手校地ライフライン再生工事に係る支出193百万円を除いた金額を表示)

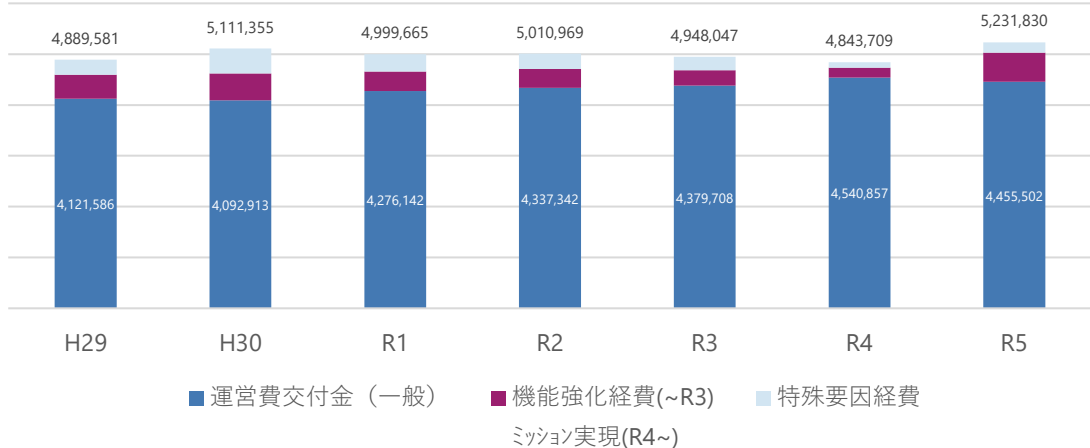


一般管理費は、前年度に建物改修工事等に伴う経費が計上されていることもあり、前年度比で減少している。

# 7. 運営費交付金

## 運営費交付金措置額 (追加配分含む)

(単位：千円)

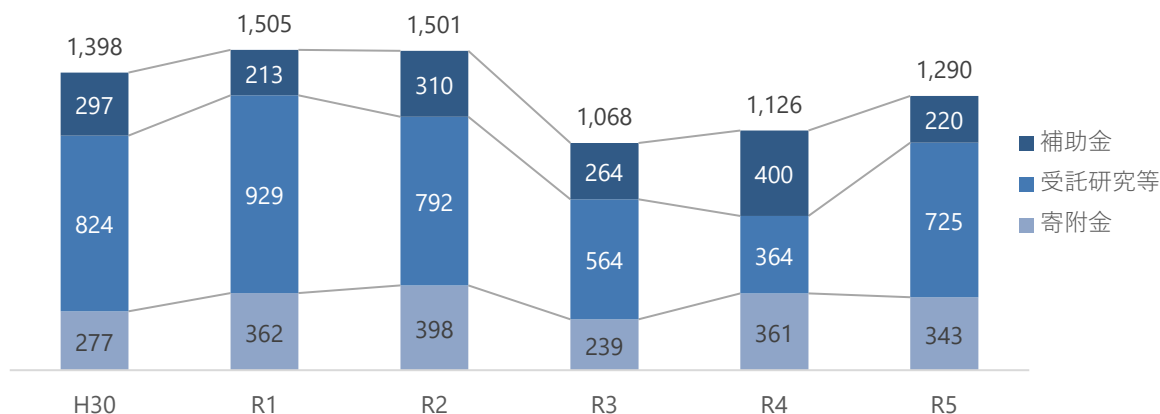


ミッション実現加速化係数(令和3年度までは機能強化促進係数)の適用を受けて、運営費交付金(一般)は、毎年約1%が削減されている。  
一方、令和5年度はミッション実現加速化経費として、大学美術館取手収蔵棟収蔵棚整備等のために333百万円が措置され、総額では前年度比で388百万円(約8.0%)増加している。

# 8. 外部資金

## 外部資金の推移

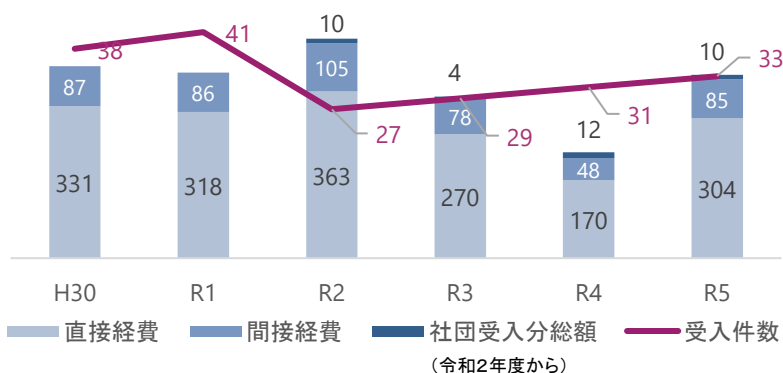
(単位：百万円)



# 9. 受託研究等

## 受託研究等の受入額・受入件数の推移

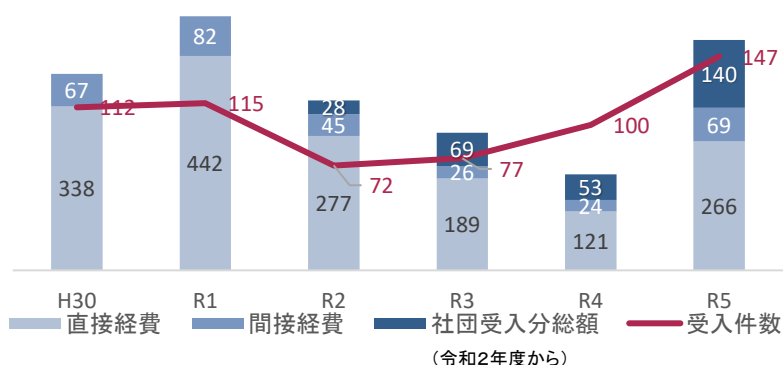
(単位：百万円)



受託研究等の受入額・受入件数は、「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」が科学技術推進機構(JST)「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の「本格型(共創分野)」に採択されたことをはじめ、受託研究等が拡大したため、前年度比でそれぞれ増加している。

## 受託事業等の受入額・受入件数の推移

(単位：百万円)



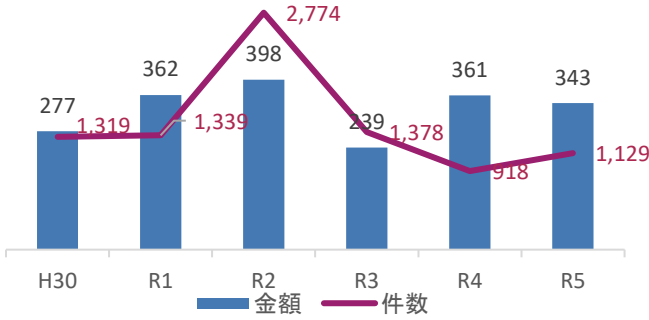
受託事業等の受入額・受入件数は、前年度までの減少傾向から転じて、前年度比で社団分も含めて、それぞれ増加している。



# 10. 寄附金

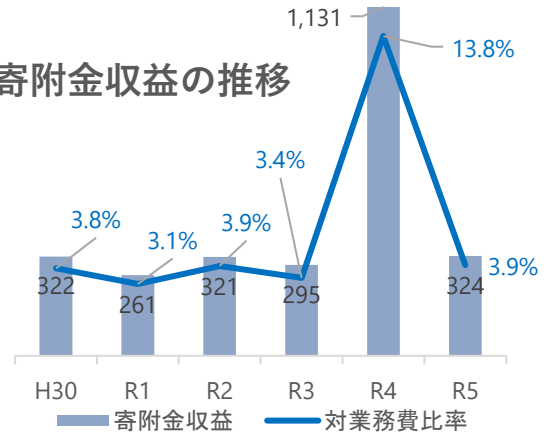
寄附金受入額の推移

(単位：百万円)



寄附金収益の推移

(単位：百万円)



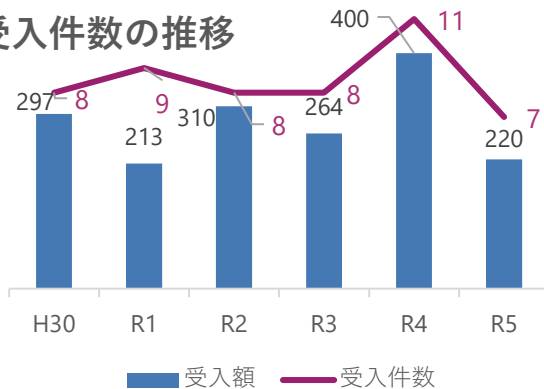
寄附金は、前年度比で受入件数は増加しているものの、受入額は減少している。  
寄附金収益は、主に寄附金を財源として整備した国際交流棟の竣工を受けて、前年度に多額の収益化額を計上したこともあり、前年度比で収益額、対業務費比率ともに減少している。

# 11. 補助金等

補助金等の受入額・

(単位：百万円)

受入件数の推移

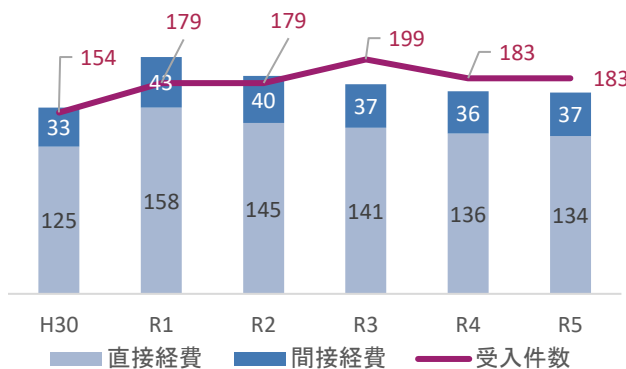


補助金等については、前年度に国土交通省から交付を受けた国際交流棟整備のための補助金を含めて計上していることもあり、前年度比で受入件数、金額ともに減少している。

# 12. 科研費

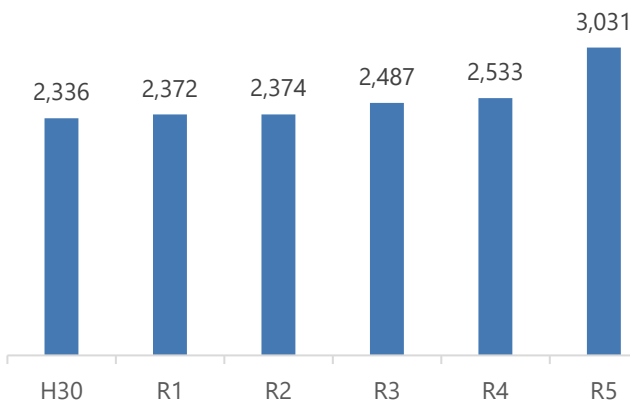
科研費の受入額・受入件数の推移

(単位：百万円)



国の科研費の予算額の推移

(単位：億円)



※日本学術振興会「科研費の予算額の推移」(2023年12月27日現在)  
[https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken\\_27\\_kdata\\_g1333/1-1\\_r5.pdf](https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_27_kdata_g1333/1-1_r5.pdf)

科研費については、受入件数が前年度と同じであるが、受入額がやや減少している。なお、国の科研費の予算額は、近年増加傾向となっている。



TOKYO GEIDAI

作成：国立大学法人東京芸術大学 財務会計課

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

本財務報告書は、東京芸術大学ホームページに掲載しております。

URL：[https://www.geidai.ac.jp/information/info\\_public/legal](https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal)